

あつて、決して、位置が変わらない。茫洋たる海原で、全く目印がない海の民や、木々に覆われて方向がわからなくなる山の民にとつて、「道しるべ」となる有難い星であり、スターナビゲーターだった。その北極星への信仰(妙見信仰)が、都市に入った際に、この世で道を誤った迷い人々を導く星であり、神仏であるという信仰へ変容したのではないだろうか。

この「道を誤った迷い人たち」というのが、すなわち罪人や流れ者、無縁の者たちで、それがゆえに千日前に妙見さんが安置されたのだらうと筆者は推測している。つまり七墓巡りの



飛田遊廓発祥の地にある慰霊碑(写真提供・陸奥氏)

そこに根差して生きてきた「過去の先人たちがいる。さらに、我々の後には、いまだに生まれてはいないが、そのまちで生きていくであろう「未来の後人たち」がいる。我々は、ただ、その「先人」と「後人」の両者のあいだに、つかのま存在しているだけの、まちの「仮の住人」に過ぎない。そのことを忘れて、なんでもかんでも一過性の選挙で決めてしまうのは非常に危険なことではないかと考えたのだ。

これはなにも筆者だけの特異な考えではなくて、例えばイギリスの作家G・K・チェスタトン(一八七四―一九三六)は「伝統とは、あらゆる階級のうちもつとも陽の目を見ぬ階級、われらが祖先に投票権を与えることを意味するのである。死者の民主主義なのだ。単にたまたま今生きて動いているというだけで、今の人間が投票権を独占するなどということは、生者の傲慢な寡頭政治以外の何物でもない」「(「正統とは何か?」)と「生者だけの民主主義」を厳しく諷刺している。

そして筆者は、このチェスタトン曰くの「死者の民主主義」を考える機会として、かつての

「七」というのは、北極星を取り巻く「北斗七星」を意味しているのではないだろうか。

なぜ、無縁仏を供養する祭礼の「大阪七墓巡り」で、「七」という数字が選ばれたのか。この「七」という数字にも、当時の人々の、何かしらの信仰や霊性の働き、宗教心が込められていると考えられる。実際のところは不明であるが、筆者の一つの直観として記しておく。

五、東日本大震災から生まれた「死生観光プロジェクト」

さて、以上は江戸時代に行なわれていた大阪七墓巡りの簡単な紹介であったが、筆者は普段は観光やまちづくりのプロデューサーとして活動している。仕事柄、大阪のまちを案内するものが多く、その中で大阪七墓巡りの風習を知ったのだが、その後、個人的な興味で七墓の場所を訪ね歩いたりしていた。

それを自分一人だけではなくて、いろんな参加者を募って歩いてみようと考えて、二〇一一年の春に「大阪七墓巡り復活プロジェクト」という団体を立ち上げ、同年の盆に、有志で七墓

大阪の町衆の風習であり、失われた「伝統」である大阪七墓巡りが最適ではないか……と考えたわけである。無縁仏を供養するという大阪七墓巡りを追体験することで「大阪の先人たちが、どのように死者と向き合ってきたか?」ということがわかるし、それがわかれば「現代の我々も、どう死者と向き合えばいいのか?」ということのヒントや指針、答えになるのではないだろうか。こうしたことから筆者は、「大阪七墓巡り復活プロジェクトは、大阪の先人たちと出逢うツアー」であり、「死者と生者が出逢う観光」であることから、「死生観光プロジェクト」と名付けている。

六、大阪七墓巡り復活プロジェクトの意義

大阪七墓巡りプロジェクトを二〇一一年から始めて、以後、毎年、盆の時期に実施している。今年の二〇二〇年で九回目を迎えた。参加者は初年度の二〇一一年は三十名ほどであったが、そこから年々と増えていき、二〇一八年には、ついに百名を超すようになった。二〇一九

巡りの跡地を辿るツアーを行なった。「そんなプロジェクトを、なぜ立ち上げたのか?」とよく聞かれるが、実は二〇一一年三月十一日の東日本大震災による福島原発事故の衝撃と、その個人的な内省が非常に大きい。

いま、日本全国各地に原発が建っているが、それらは地元住民の賛同の下に建てられている。もちろん地元住民全員が賛同しているわけではなくて、反対の住民もいるだろうが、最終的には「多数決」という選挙の結果で誘致が決定したところが大半だろう。

しかし、筆者は「生きている住民の賛否だけで原発誘致を決めていいものなのだろうか?」という疑問を抱いたのだ。なぜならば、仮に原発に重大な事故が起こると(その懸念が現実のものとなったのが福島原発事故であったが)、その被害は非常に甚大で、時と場合によっては数十年、数百年に亘って地域社会に悪影響を及ぼしかねない。現在、生きている住民だけで原発誘致を決めるには、あまりにも責任が重すぎるのではないか。

そもそも、まちには我々が存在する以前に、

信用、そして品質

私たちランウェイトレーディングは中国の自社工場で、「信用」「品質」に重点を置き、日本産各種のほか各種原石から、責任を持って製品加工をしています。

取扱日本産石種：大島石、天山石、万成石、北木石、真壁小自、青木石、唐原石など



ランウェイトレーディング(株)

本社：大阪府大阪市中央区北久宝寺町1-2-1
オーセンティック東船場1103号
TEL: 06-6266-3030 FAX: 06-6266-3939
E-mail: stone@lanwei-trading.co.jp

自社工場：漳州翔亜石業有限公司
住所：漳州長泰縣古農農場銀塘工業区
TEL: +86-596-8357700 FAX: +86-596-8357880
中国窓口：廈門嵐鏡進出口有限公司
住所：廈門思明區湖濱南路20号基金大廈
TEL: +86-592-2282780 (日本語可)
FAX: +86-592-2282770
E-mail: lanweixm@lanwei-trading.co.jp

